

## [COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>

E-mail:[comm.tko@nskk.org](mailto:comm.tko@nskk.org)

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



## 中高生キャンプ特別号

第18号(通巻1253号)

2014年9月23日

編集:広報委員会

委員長:渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園3-6-18

8月18日から21日までの4日間、群馬県水上の日本バイブルホームにて2014年度東京教区夏の中高生キャンプが開催されました。中高生17名、青年スタッフ6名、引率スタッフとして太田信三聖職候補生、チャップレンとして上田亞樹子司祭、以上の総勢25名が大自然の中で共に過ごし、同じ時を分かち合いました。

今年度のキャンプテーマは「向き合う」。このテーマの下に14のプログラムが構成されました。一つのテーマについてお互いの考え方や想いを話し合う「分かち合い」、「みことばの時間(聖書研究)」。大自然を感じる「ハイキング」「キャンプファイヤー」「天体観測」。最後には全員で準備して捧げる「聖餐式」などがありました。

このキャンプを通して自然、人間、時には自分と：その他様々なものとじっくり「向き合う」4日間になつたのではないでしょう。

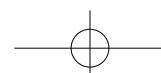


テーマ「向き合う」  
今年度のキャンプテーマは「向き合う」でした。多くのことを考える時期である中高生ですが、その一方で多くの課題に追われる日々の中で何かと「向き合う」という時間を持つことが難しい時期もあります。また、普段属するコミュニティの中で他人と意見が違うことを恐れ、大多数の意見を正解としてそれに自らを合わせようとする傾向が強い時期であると私たちを感じていました。

「向き合う」という行為は私たちに新たな視点を与え、そして、その行為は答えを求めることがすべてではないと教えてくれることさえあります。

「向き合う」とはどういうことが私たちの中高生とともに分かち合い、また体感・体験したいと思いこのテーマを設定しました。

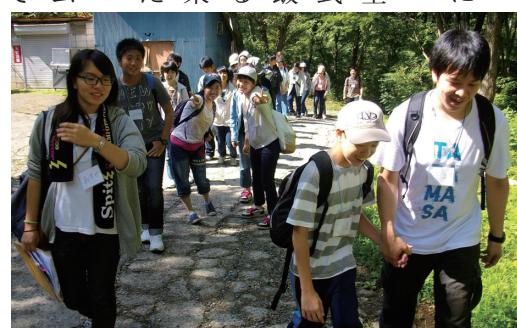
そして、このキャンププログラムをもとにすべてのプログラムに「～と向き合う」という小テーマを設定し、常に「向き合う」を意識しながら4日間を過ごしました。



1日目の前半は、「バスレク」「アイスブレイкиング」などのレクリエーションが主なプログラムでした。歌や、ゲームをするうちに少しづつですが緊張がほぐれていく表情がみました。

この日の目玉プログラムは、夜の「わかちあいI」でした。6人程のグループに分かれ、スタッフが「たいせつなきみ」という絵本の読み聞かせをした後、それぞれが気になつたことや感じたことを話し合いました。「この絵本の世界は学校や、自分たちの生きている世界に似ている気がする」「人からの評価って大事な時もあるけど、人によって感じ方は違ない?」たくさんの方々とお話しする時間でした。

就寝前の祈りをし、各々日記を書いて1日目は終了です。



それぞれの意見を分かち合いました。丸太とおが肩について考えを巡らせたり話しあつたりと、グループごとに「みことばと向き合う」ことが出来たようです。夜は「室内レクリエーション」で、自分自身の感覚と向き合うことが出来るゲームをして楽しみました。2日目最後のプログラムは「天体観測」でした。直前まで降っていた雨が嘘のように上がり、軽いナイトハイクの後、地面に寝転がって星空を眺めました。自然を体感するプログラムが多かった一日は天候にも恵まれ、キャンプの前半を終えました。

「はーみことはの時  
間」でした。マタイ  
による福音書第7章  
1節～6節の「人を  
裁くな」についてそ  
れぞれの意見を分か  
ち合いました。丸太

したことで、自分でどうしようも  
なく辛かつたことも少し消化された気がした。また昨年おとなしいのかなと思つていた人もすごくしつかりした意見を言つていて、人つて1年でこんなに変わるんだ、私も頑張ろう、と思い刺激を受けた。普段の生活ではあまりよく実感できない「成長」を様々などころで実感できたキャンプだった。最後に、ここには書き切れないほどたくさんの方の楽しさをくれたこのキャンプに関わったすべての人に感謝と、また再会できることを願つてこの文を締めた  
いと思う。

のに変わったのか、考えてみました。  
一つ目は、自然の中での生活です。  
空気が澄んでいて、川や風の音、鳥の  
声が聴こえ、夜には満天の星空が見え  
ました。このような普段感じることの  
できないものを身体で感じることで、  
心が洗われた気がしました。

短く限られた時間だからこそ、今回のテーマの「向き合う」を実感できたのだと思います。相手を理解し、怖がらず自分を表現するということの大切さを感じたキャンプでした。

2日目は、外で行つた朝の祈りから一日を始めました。この日最初のプログラムは「ハイキング」でした。「自然と向き合う」の小テーマのもと、近くにあつた奈良俣ダムまで

を飾らず語り合える。そして人の考えを素直に受け取り、自分の知らない自分に会える気がする。私自身はこの語り合いでのキャンプのテーマでもある「向き合う」を自分として、口に出したことと、自分の中はどうしようもなく辛かつたことも少し消化された気

た。みんなといふと心が安らぎ、普段抱えている悩みを忘れて、自分に気づきました。なぜ不安ができるも

高2 小幡 千花

高2 小幡千花

中2 平林 瑶子

3日目最初のプログラムは「聖餐式準備」でした。これは4日目におこなわれる聖餐式に全員で役割を担つて臨むというプログラムがあり、そのための準備の時間でした。それぞれが自らの賜物と向き合い、それぞれの役割を選び、準備をしました。

続いてのプログラムは「ものづくり」で落ちている木と事前に用意した紐を使って全員で十字架ネックレスをつくりました。木はそれ探しに行つたため、出来上がったネックレスの形は様々で、世界に一つだけのオリジナルネックレスができました。

昼食を挟んでからは、「わかちあいⅡ」。6人程のグループに分かれて「向き合う」とはどういうことなのかについて話し合いました。それぞれの価値観を共有し、自分の考えを深めることでの貴重な時間でした。

夕の祈りと夕食を挟み、夜は「キャンプファイヤー」。火を囲みながらゲームをしたり、歌つたりと、キャンプ独特の時間・空間と向き合いました。キャンプファイヤーの最後には全員でキャンプの感想を言い、火を囲みながら就寝前の祈りをして3日目のプログラムは終了しました。



最終日最初のプログラムは「大掃除」でした。「施設と向き合う」という小テーマのもと、4日間キャンプに集つた人々を守つてくれた施設に感謝の気持ちを込め、自らの手で掃除を行いました。

次は「メモリアルブック」でした。小テーマは「そこにいたみんなと向き合う」です。キャンプが終わつてもいつも一人ひとりのことを思い出すことができるように、それぞれがキャンプを振り返りながら全員にメッセージを書いていきました。

キャンプの最後には、皆で聖餐式を捧げました。それぞれが役割を持ち、時には工夫を凝らしながら準備をしてきました。その一人ひとりの努力、想いが結晶のように集まつた印象深い聖餐式になつたと思います。

その後は昼食を頂き、バスに乗り込み、キャンプ場を後にしました。バスの中では自然と「向き合う」という言葉が出てくるぐらに、このキャンプで一人ひとりが様々なものを感じ、受け止め、考え、向き合つていたと実感することができました。



中3 牧野 悠剛

一度目のキャンプで  
もやはり緊張からの始まりでした。

初日、教会に着く迄に僕は「初めて会う人と上手く喋れるかな」とか「昨年同じだった人と昨年と同じ様に接する事ができるかな」等そんな不安で頭は一杯でした。しかし、教会に着いた途端に喋りかけてくれた人、バスの中で一緒にプログラムを楽しんでくれた人、宿に着いてすぐに遊んでくれた人、周りの仲間の優しさのおかげですぐに打ち解ける事が出来ました。

僕はハイキングで、険しい山道を声掛け合つたり歌つたりしながら歩く事で目的地に着いたときの達成感からみんなが自然と笑顔になれたのを見て、自分が協力することって素敵だなと思い印象的でした。それらの部分も含め今回のキャンプではキャンパー一人一人の性格や想いを知り、テーマ通りにそれがと少しすつ「向き合う」ということを知りました。このキャンプをとおして私は、プログラマム、全ての時間に温かさを感じました。このキャンプをとおして私は、「向き合う」とはどういうことが、体で実感し、深く考えることができました。初めて会つた人と行動をともにして少し緊張し、キャンプ中に向き合えなかつたこともたくさんありました。これまであじわえなかつた初めての体験ができ、また参加したいと思いました。



中3 小野 朝子

一度目のキャンプで  
私は今回初めてこのキャンプに参加しました。

何が一番楽しかったかは、一言では言えないけれど、全ての時間が意味のある時間だつたと思いました。

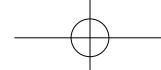
まず、バスレクやアイスブレイキングでいろいろなゲームをして緊張がほぐれ、わから合いではいろいろ人の意見を聞き、たくさんのことを考えさせられました。そして、ハイキング、天体観測、キャンプファイヤー、屋内レクリエーションでは、自然と向き合つたり歌やゲームを楽しむことができました。他にも、ものづくり、聖餐式、清掃など、たくさんのことを行つたなかで、全てのプログラムを楽しむことができました。

キャンプではキャンパー一人一人の性格や想いを知り、テーマ通りにそれがと少しすつ「向き合う」ということを知りました。このキャンプをとおして私は、「向き合う」とはどういうことが、体で実感し、深く考えることができました。初めて会つた人と行動をともにして少し緊張し、キャンプ中に向き合えなかつたこともたくさんありました。これまであじわえなかつた初めての体験ができ、また参加したいと思いました。

この夏の出会いを大切に「向き合う」という言葉を自分の成長に活かし日々

の生活を送り、また来年のキャンプも参加したいと思います！

この夏の出会いを大切に「向き合う」という言葉を自分の成長に活かし日々



## キャンブリー



ダ

山崎健吾

スタッフと  
してキャンブ  
リの準備を進め  
る中で「中高

生一人一人に大きな恵みを持って  
帰つて欲しい。」という気持ちが大きくなつていました。その気持ち  
が大きくなる一方で、中高生に自分たちの思いが届くのかという不安もキャンブリーが近づくにつれて大きくなりました。

そのような思いを胸にキャンブリーを迎え、その4日間はあつという間でした。「向き合う」というテーマを設定し、中高生にじっくりと「向き合う」時をこのキャンブリーで持つてほしいという思いであつたにも関わらず、刻々と進んでいくキャンブリーの時間の中で私自身が何かと「向き合う」ことができていませんでした。キャンブリーが終わり4日間を振り返つてみると、私たちの思いをはるかに超えて中高生自身一人一人が何かと「向き合う」キャンブリとなつていたと思います。そのような中高生の姿から私の方が恵みをもらつて東京へと帰つてきたキャンブリーでした。

## 青年スタッフ感想

単に楽しいだけでなく色々なこ

とに気付かされるキャンブリーでした。「向き合う」ことにとても疲れましたが、それ以上によいものを得ることができました。

小林 忠正

向き合うことで向き合うことの本質が見えてきた、そんなキャンブリでした。一緒に向き合つてくれた参加者の皆、支えてくれたすべての方々に感謝します。

下条 あすか

25名が出会い、共に過ごし、「向き合う」ことでキャンブリーという輪が形になつたと、最後の夜に火を囲んだ時に実感しました。

沼原 類



司祭 上田 亜樹子

## 今年度の参加者

【中高生】

小野朝子、小幡千花、金子英  
しさもある中で、中高生もスタッフ

志郎（立教学院諸聖徒礼拝堂）、北  
村恵里沙（神愛教会）、田中萌

実（神愛教会）、小嶋元、榎原  
金澤一心（神田基督教会）、北

林大耀、牧野悠剛（聖アンデレ  
教会）、平林瑠子（渋谷聖ミカ  
エル教会）、穂積香菜（三光教  
会）、溝井ひかり（大森聖アグ  
ネス教会）、宮崎真理（立教学  
院諸聖徒礼拝堂）、本幡明子（聖  
救主教会）、柳澤光輝（立川聖  
パトリック教会）

小野朝子、小幡千花、金子英  
しさもある中で、中高生もスタッフ

高生キャンブリー準備会はこの1年間

準備し、無事に夏の中高生キャン  
ブリー終えることができました。ご

支援、ご協力頂いた教会、聖職や

信徒の方々にスタッフ一同より感  
謝申し上げます。ありがとうございました。

## 感謝

皆様の温かい応援の声を励み  
に、そして神様の御恵みの下で中  
高生キャンブリー準備会はこの1年間

準備し、無事に夏の中高生キャン  
ブリー終えることができました。ご

支援、ご協力頂いた教会、聖職や

信徒の方々にスタッフ一同より感  
謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度の夏の中高生キャンブリーに  
ついて

中高生キャンブリー準備会は「青年  
による中高生キャンブリーを東京教区  
の夏の恒例行事にすること」「長  
く続けられる活動にすること」を  
目標に活動しております。来年度

も夏の中高生キャンブリーを開催する  
ためにスタッフは前年から来年度  
のキャンブリーに向けて準備を開始致  
します。そのため青年スタッフ  
を募集致します。詳細につきまし  
てはお知らせを各教会へお送りす  
る予定です。是非ご覧ください。  
また、中高生の募集につきま  
しても後日お知らせする予定です。  
よろしくお願い申し上げます。